

## 【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

## 東久留米市立第五小学校 第5学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字小テストの結果から、新出漢字を書くことはできている。</li> <li>・1学期の「書くこと」の学習では、既習漢字を使って書くことに課題があった。</li> <li>・1学期の授業では、説明文の要旨を捉え、必要な情報を抜き出すことに課題があった。</li> <li>・1学期の授業では、物語文で主人公の心情の変化について、自分の考えを文章で表現することに課題があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モジュールの国語の時間を活用して漢字の練習を行うほか、日頃から既習漢字を使うよう声掛けをし、8割以上の児童が既習漢字を使えるようにする。漢字小テストの学級の平均点は9割以上を目指す。</li> <li>・校内研究の柱の一つである「着目させる言葉」をよく吟味した教材研究を行う。その言葉に焦点を当てた授業を行うことで、児童の理解度や文章表現の力を高める。9割の児童が自分の考えを文章化し、表すことができるようにする。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位量あたりの大きさ、小数のかけ算では、筆算の書き方によっておこるミスが見られたため、丁寧に問題を解くことに課題がみられた。</li> <li>・1学期の授業では、問題に対する自力解決場面で自分なりの解決策を提案することに課題があった。</li> <li>・1学期の授業では、公式等の成り立ちを理解せずに使う児童の姿が見られ、応用問題で分からなくなってしまうという課題がみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートのマスや線の引き方、位をそろえる決まりなど、小さなことも丁寧にいう習慣化を図る。(9割以上の児童の習慣化を目指す。)</li> <li>・グループ編成やICTの活用をすることで、児童が説明しやすい環境を整える。</li> <li>・既習の筆算や公式の意味を実態に合わせて再確認(ワークシートや掲示等)し、新たな知識・技能や活用にも適応できるよう単元、学年を横断的・縦断的にとらえ、授業を構成していく。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の授業では、つかむ段階で、社会的な見方・考え方を働かせて資料から学習問題を立てることに課題があった。</li> <li>・調べる段階で、学習問題・課題に沿った調べ学習を教科書を使って行うことができる。</li> <li>・単元を通して、社会参画意識の高まりに課題があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元導入時に、児童が切実感を持てる資料の提示を行うことで、8割以上の児童が個の学習問題を立てられるようにする。</li> <li>・教科書を使った調べ学習の仕方は定着してきたため、調べたことで新たに疑問を出し、その疑問を共有し、協働的に解決策を考える時間の設定をする。(発言10割を目指す。)</li> <li>・上記の改善策を生かし、社会参画意識を高め、その姿勢がまとめや振り返りに反映されるよう指導する。(5割達成を目指す。)</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の授業から自然の事象・現象について理解を図り、観察・実験などに関する基本的な技能が定着している。</li> <li>・観察・実験などを行い、問題解決の力を働かせて問題を予想したり、考察を分かりやすくまとめたりする力に課題がある。</li> <li>・実験の結果、自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度が身に付いていると分析する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的活動を繰り返すことで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る。また、問題解決の力を育成するために、理科の見方・考え方を働かせ、これまで学習の中で行った実験等の経験や生活体験を思い起こしたり、学んだ知識を生かしたりして、問題の予想に理由を加えて考えられるようにする。(9割以上)</li> <li>・ノートに、授業の流れや自分の考えを分かりやすくまとめ、対話的な活動を通して、実験の結果を予想したり、結果に対しての考察を深めたりしていけるようにする。(9割以上)</li> </ul>